定時理事会 代表理事挨拶「古泉財団設立10周年にあたって」

皆様、本日はご多用のところ、ご出席いただき、誠にありがとうございました。

今年も残すところ、あと１か月余りとなりました。

本年も皆様には、それぞれのお立場から、財団の運営ならびに事業の推進に多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

古泉財団は、地域の発展に貢献する人材の育成を目指し、奨学事業と助成事業に取り組んでおります。

この１年を振り返りますと、奨学事業、助成事業ともに、大変優秀な方々を迎えることができました。

奨学事業では、新規採用20名、継続採用36名、合わせて56名の奨学生を採用いたしました。

また、助成事業では、社会科学系９名、自然科学系13名、合わせて22名の方々を助成対象者として選定いたしました。

そして今年、古泉財団は設立10周年という大きな節目を迎えました。

この 10 年間で、奨学金を支給した学生は累計 530 名、助成金を支給した研究者は累計95名となり、着実に事業の実績を積み重ねてまいりました。

本日は、この10周年という節目にあたり、少しお時間をいただいて、財団設立の経緯とこれまでの歩みについてお話ししたいと思います。

私が亀田製菓株式会社の社長に就任したのは、41歳のときでした。

現在84歳になりましたので、それから43年が経過したことになります。

エイケイが設立されたのは 1984 年で、私が亀田製菓の社長に就任した翌年のことです。

株式会社エイケイは、亀田製菓に対する多様な需要に応えるため、大量生産を行う商品とは異なる、特殊なルートでの生産を担う会社として発足しました。

今から42年前のことです。

それから時を経て、今から10年前、私が株式会社エイケイの代表取締役会長に就任した際に、財団の設立が検討されました。

長谷川彰先生と話し合いを重ねながら、まずは奨学事業をスタートさせました。

エイケイグループには、私が掲げた「利他・地域とともに」という理念があります。

これは、古泉財団の事業を通じて大切にしてきた精神を、エイケイグループ全体でも共有し、継承していきたいとの思いから、グループの理念として掲げたものです。

財団設立以来 10 年間で、これだけ多くの学生の皆さんに奨学金を支給することができました。

この歩みを振り返り、継続すること、そして年数を重ねることには大きな力があると、改めて実感しております。

また、5年前には、高橋姿先生へご相談しながら、助成事業を開始し、多くの学生や研究者の皆様に助成金をお届けすることができました。

これまで財団の事業を支えていただいた長谷川彰前選考委員長、髙橋姿審査委員長、牛木辰男選考委員長には、多大なるご指導とご尽力を賜りましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。

今後も、こうした皆様のお力添えをいただきながら、財団の事業を着実に継続してまいりたいと考えております。

これからさらに10年、20年と歩みを重ねていく中で、財団の活動が大きな成果となり、地域の発展につながっていくことを期待しております。

来年も引き続き、皆様のお力添えをいただきながら、財団のさらなる発展と、地域の発展に貢献する人材の育成に努めてまいりたいと考えております。

本日はありがとうございました。

2026 年 11 月 20 日

公益財団法人古泉財団

代表理事　　古泉　肇